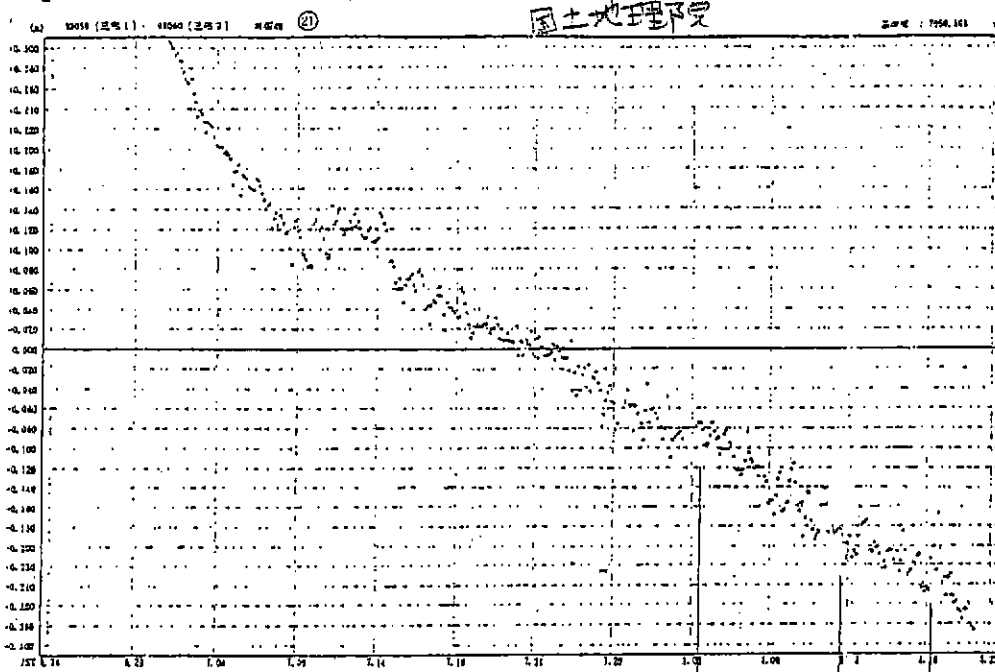
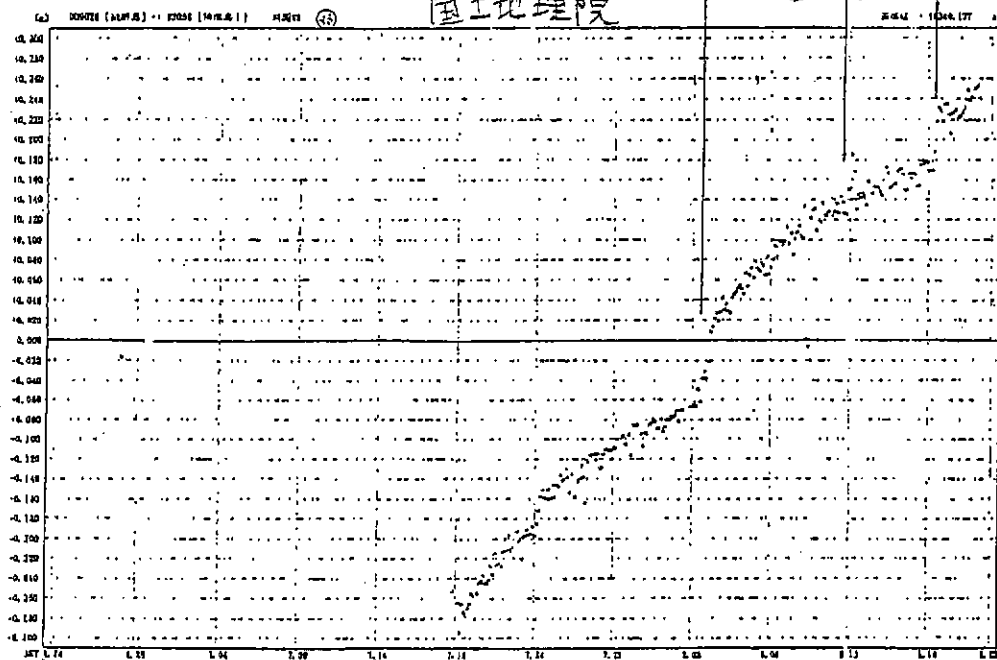


[三宅1 → 三宅2]



6/24

[M 新島 → 神津島1]



6/24 29 7/4 9 14 19 24 29 8/3 8 13 18 22

2000年6月27日以降三宅島の西方海域に拡大した地震活動も、途中でくいちがう北西-南東方向の帯状分布をなし、北東-南西方向に開口する割れ目の形成に伴うものと解釈されている。規模の大きな地震が繰り返し発生し開口変位が継続していること、開口変位の加速と三宅島の収縮との間に相関がみられることから、三宅島地下のマグマが西方海域の開口割れ目へ貫入している可能性がある。また、三宅島の収縮量(約2億 $m^3$ )と山頂陥没量(約3.5億 $m^3$ )の合計(=三宅島からの流出量5.5億 $m^3$ )は、長さ30km・幅6km・開口量3mのダイクの体積に相当する。